

2024年度 環境活動レポート

(2024年4月～2025年3月)

令和7年5月31日

マツダオートザム札幌インター
株式会社 共立自動車

目次

環境方針	P1
事業活動内容	P2
登録認証の範囲	P3
エコアクション21 実施体制	P4
環境目標	P5
環境計画	P6
環境活動の取組結果の評価	P7
環境活動の次年度の取組	P8
環境関連法規への違反・訴訟の有無	P9
代表者による全体の評価と見直しの結果	P10
店舗配置図	P11

株式会社 共立自動車
マツダオートザム札幌インター

環境経営方針

《基本理念》

株式会社 共立自動車は、自動車販売・自動車整備・自動車保険の全ての事業活動により環境を配慮した営業活動やリサイクル部品を利用する等、お客様と共に環境負荷の低減につとめ、自然との調和を図り地域社会に奉仕する心をもって地球環境の保全に取り組みます。

《行動指針》

- 1 環境に関する法規制を遵守します。
- 2 地域社会に奉仕する心で事業活動をし、社会に貢献する。
- 3 メンテナンスの促進等によりお客様一人一人と共に環境負荷の低減を推進する。
- 4 節水、節電、化石燃料の節約に努め、二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。
- 5 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
- 6 環境活動レポートを取りまとめ公表し、全社員総動で環境に取り組みます。

制定日 : 2010年4月1日

改定日 : 2020年10月1日

株式会社 共立自動車
マツダオートザム札幌インター
代表取締役社長

後藤 裕章

事業活動の概要

1. 事業社名及び代表者

マツダオートザム札幌インター
株式会社 共立自動車
代表取締役 後藤 裕章

2. 所在地

北海道札幌市白石区米里一条2丁目1番7号
電話 011-874-6111

3. 事業内容

マツダブランドの乗用車・商用車・軽自動車の新車販売
中古自動車の販売
部品・用品の販売
自動車整備業
損害保険代理店業

4. 事業の規模

従業員	15名
年間売上高	42,171千円
年間車両販売台数	168台
年間整備在庫台数	4,195台

※ 令和4年9月～令和5年8月期

5. 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者
EA21環境推進事務局

後藤 裕志
森 修
田村 健一

登録認証の範囲

1. 認証 登録事業者

株式会社 共立自動車

2. 対象事業所

マツダオートザム札幌インター

3. 認証 登録の活動範囲

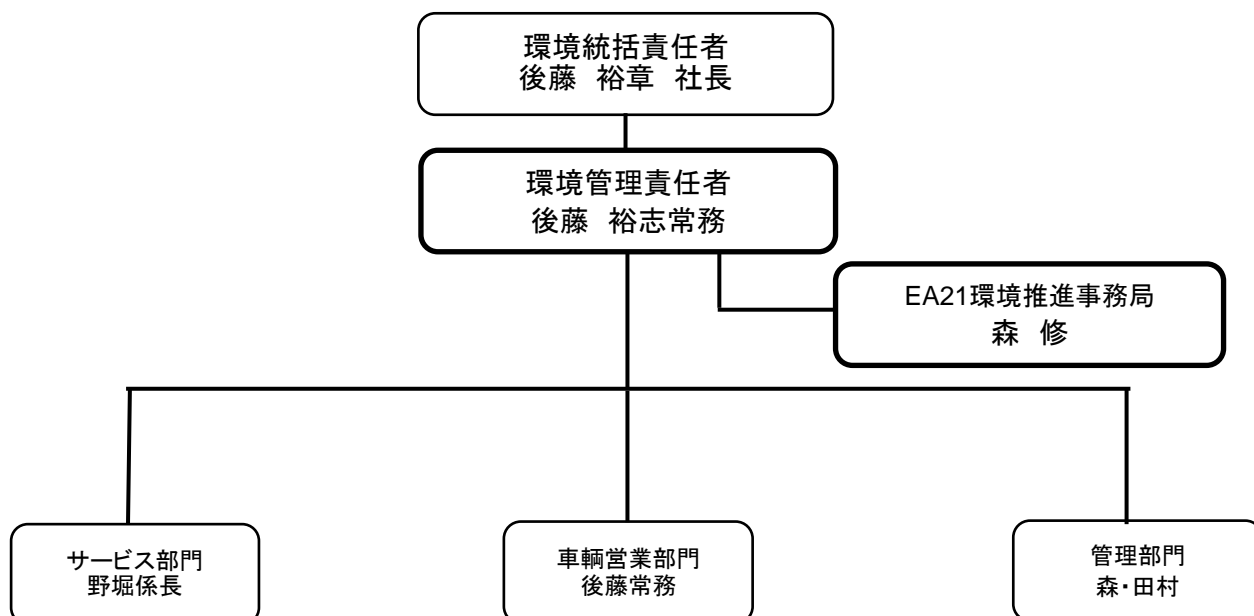
自動車の販売(新車・中古車)

自動車部品・用品販売

自動車の修理及び整備

損害保険代理店業

エコアクション21 実施体制



<役割>

環境統括責任者 <代表者・社長>	環境マネジメントシステム(以下EMS)に関する統括責任者 <ul style="list-style-type: none"> ・EMSの実施及び運用に必要な人・設備・費用・時間を用意 ・環境管理責任者の任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標の設定を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	実務上の責任者として、全社の環境取り組みを推進する ※代表者は、環境活動の実務に関して全部門に対する指揮命令権限を委譲 <ul style="list-style-type: none"> ・EMSの構築、実施、管理 ・環境活動計画書、環境関連法令取りまとめ、リスト等の承認する ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
EA21推進事務局 環境推進担当者	環境管理責任者をサポートし、EA21推進事務局として全社の環境取組を推進する <ul style="list-style-type: none"> ・店舗の環境取り組みの指導・支援 ・環境データの集計・取りまとめ
実施責任者	部門責任者として部門に関わる環境目的・目標達成みに向けた取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・部門メンバーに対する環境取組の指導・支援

令和6年1月1日改正

環境目標

1 環境負荷の現状

項目		環境負荷推移(実績値)				
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
二酸化炭素排出量		kg-co2	64,017	53,392	65,702	59,383
電力使用量		kwh	62,114	60,659	58,884	57,921
化石燃料	ガソリン使用量	L	2,217	2,394	2,651	2,778
	軽油使用量	L	1,468	2,094	2,622	2,066
	LPガス	m ³	591	609	678	579
	重油	L	4,400	3,600	4,600	3,500
	灯油	L	6,670	4,160	3,523	2,857
一般廃棄物(可燃物)		kg	1,410	1,152	2,089	1,344
水使用量		m ³	911	769	839	750
メンテナンスパックの促進		車両販売・車検時	163	186	162	170
整備点検入庫台数(メンテナンスパック)		整備台数/整備予定台数	488	512	488	536

環境活動計画

当社の主要な環境活動計画の内容は以下の通りです。

■二酸化炭素排出量の削減

①電力使用量の削減

- ・電気メーターの確認・記録
- ・不要な照明の消灯確認
- ・ショールーム/事務所のエアコンの温度設定確認
- ・エアコンフィルターの定期的清掃
- ・事務所棟待合室の消灯
- ・暖房の温度設定確認
- ・電気器具の定期的な清掃と一部LED への交換
- ・板金工場の整備作業の効率化と生産性向上

②化石燃料使用量の削減

- ・エコドライブの啓発(アイドリングストップ)
- ・タイヤの空気圧・不要な荷物の整理
- ・代車の満タン貸し出し・満タン返し徹底
- ・会社の暖房器具改修及び運用管理の徹底で暖房用燃料の削減
- ・除雪・排雪業務の適正化と効率化による軽油の削減
- ・一部廃油を使った暖房に切り替え灯油の削減

■廃棄物排出量の削減

①紙使用量の削減

- ・ペーパーレスの推進
- ・両面コピー・裏面使用の徹底

②一般ゴミの削減

- ・社員各自が規則に則ったゴミだし徹底と紙、段ボール等は無料で業者へ引取って貰う
- ・産業廃棄物の混入物チェック徹底し、再資源物(鉄、バッテリー他)は買取業者へ引取って貰う

■排水量削減(水使用量の削減)

①水道メーターの確認・記録

- ・漏水等の確認を定期的に行う

②節水活動の推進

- ・節水の掲示を各蛇口付近に貼付(顧客用トイレを含む)
- ・節水用洗車ガンのメンテナンス
- ・洗車マニュアルによる洗車徹底

■化学物質使用量の把握

①塗料及びうすめ液の購入量の把握

②トルエン、キシレンの使用量算出、廃棄量の把握

■メンテナンスパックの促進及び整備入庫率の向上

①メンテナンスパックの促進

- ・新車販売及び車検等整備点検時にメンテナンスの重要性と法定点検の必要性の説明を行い顧客の車両安全及び維持費用の削減を図る

②車両整備入庫率の向上

- ・車検・点検時の計画的入庫の案内推進により顧客車両の安全性を維持する
- ・計画的入庫による作業の迅速化と効率化に努め残業等の削減により環境負荷の低減する

1. 環境目標の達成状況

(2024年4月～2025年3月運用期間の実績)

評価基準

項目	単位	目標(年間)	実績	削減率/増加率	評価	
二酸化炭素排出量	kg-co2	65,571	59,383	-9.4%	◎	
電力使用量	kwh	58,766	57,921	-1.4%	○	
化石燃料	ガソリン使用量	L	2,646	2,778	5.0%	×
	軽油使用量	L	2,617	2,066	-21.1%	◎
	LPガス	m ³	677	579	-14.5%	◎
	重油	L	4,500	3,500	-22.2%	◎
	灯油	L	3,516	2,857	-18.7%	◎
一般廃棄物排出量	kg	2,084	1,344	-35.5%	◎	
水使用量	m ³	837	750	-10.4%	◎	
メンテナンスパックの促進	加入/車検販売台数	162	170	4.9%	○	
整備点検入庫率	整備台数/整備予定台数	487	536	10.1%	◎	

- ◎ 目標値より5%以上削減
- 目標値より5%以下の削減
- △ 目標値より5%以下の増加
- × 目標値より5%以上の増加

参照 排出係数は北電CO2排出係数0.533kg-CO2/KWhを使用した。

注: 二酸化炭素排出量が目標より大幅に削減となった。要因は①暖冬で重油・灯油の使用量が減った②除雪作業が減り軽油が減った。③板金の入庫台数が昨年より減少し、電力とLPガスの使用量が減った。

④ガソリンの増加は社用車の頻度増とサービス代車の満タン貸し/満タン返しのチェック甘さが考えられる

注: 一般廃棄物が目標を36%と大幅に削減になったのは、再資源物(金属、紙、バッテリー等)を買取業者へ引取って貰った結果削減になった。

注: 洗車作業担当者が作業マニュアル沿って1台毎洗車に注意を払った洗車を行い結果水の少量が減った

2. 環境活動の取組結果の評価

■二酸化炭素排出量の削減	
○	<p>電力使用量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 不要な場所、休憩時の消灯などの日々の節電効果が数値として確認できた。 工場の作業見直しと効率化及び、繁忙期の計画的な入庫管理により、残業の削減に繋がり、電力使用量を削減できた 板金の工賃作業(売上)が昨年より減少したのに伴い、電力使用量も減った。 毎月の定例会議において、電力等の使用量の確認を行った結果、節電に繋がった。
◎	<p>化石燃料の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ガソリンの増加は社用車の使用頻度が増加とサービス代車の満タン貸し/満タン返しのチェック甘さで使用量も増えた 除雪と排雪業務の適正化と効率化及び稼働が例年より減少し軽油の使用量が減った 重油ボイラー日々の使用チェックの徹底と暖冬の結果、大幅な使用料削減に繋がった。 暖房用の灯油は、日々の使用のチェックと板金ブースの石油暖房を廃油を使った暖房へ切り替えたのと、暖冬で灯油の使用量が減った結果、使用量削減に繋がった。 現場の作業時間管理の徹底で、残業時間が削減された結果、電力・重油の削減に繋がった 板金修理の車両入庫は多かったが、LPガスを使用する作業が少なくて削減になった
◎	<p>車両販売によるエンドユーザーの化石燃料の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> メンテナンスパックの加入促進により顧客の管理整備が行えた。 整備点検入庫率の向上及び顧客車両の管理営業整備によるエコの推進
◎	<p>水使用量</p> <ul style="list-style-type: none"> 洗車作業担当者が作業マニュアル沿って、1台毎洗車に注意を払った洗車を行い結果水の少量が減った
■廃棄物排出量の削減	
◎	<ul style="list-style-type: none"> 混合廃棄物と一般廃棄物を厳格に分類を徹底した結果、再資源物(紙類)は買取業者に引取って貰い、ゴミ出しの記録を提示し、出来るだけ廃棄物を出さない様をお願いした 紙使用量 ⇒ペーパーレスの推進と両面コピー・裏面使用の徹底 ゴミ出しの記録
■化学物質使用量の把握	
○	<ul style="list-style-type: none"> 塗料及びうすめ液の購入量の把握する。 トルエン、キシレンの廃棄量の把握する。
■メンテナンスパックの加入促進及び整備入庫率の向上	
○	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスパックは目標加入件数が、ほぼ目標を通りであったが活動を促進し契約の増加を目指す。 メンテナンスパック整備入庫が前年整備台数を上回ったが、現状より1台でも多く入庫促進する

環境活動の次年度の取組

2024年環境目標及び環境活動計画を基に2025年度以降は以下を目標として取り組む。

1. 2025年 環境目標 (2025年4月～2026年3月運用期間)

項目	単位	基準年度 2024年 度	基準年度か らの削減率	2025年度 環境目標	基準年度か らの削減率	2026年度 環境目標	基準年度か らの削減率	2027年度 環境目標	
二酸化炭素排出量	kg-co2	59,383	0.1%	59,324	0.15%	59,294	0.2%	59,264	
電力使用量	kwh	57,921	0.1%	57,863	0.15%	57,834	0.2%	57,805	
化石燃料	ガソリン使用量	L	2,778	0.1%	2,775	0.15%	2,774	0.2%	2,772
	軽油使用量	L	2,066	0.1%	2,064	0.15%	2,063	0.2%	2,062
	LPガス	m ³	579	0.1%	578	0.15%	578	0.2%	578
	重油	L	3,500	0.1%	3,497	0.15%	3,495	0.2%	3,493
	灯油	L	2,857	0.1%	2,854	0.15%	2,853	0.2%	2,851
一般廃棄物排出量	kg	1,344	0.1%	1,343	0.15%	1,342	0.2%	1,341	
水使用量	m ³	750	0.1%	749	0.15%	749	0.2%	749	
メンテナンスパックの促進	車両販売・車検時	170	-0.1%	170	-0.15%	170	-0.2%	170	
整備点検入庫台数(メンテナンスパック)	入庫/入庫予定	536	-0.1%	537	-0.15%	537	-0.2%	537	

参照 排出係数は北電CO2排出係数0.533kg-CO2/KWhを使用した。

注: 2025年度確認目標は、2024の基準値に対して削減率を0.1%の目標値に設定した。

2026年度確認目標は、2024の基準値に対して削減率を0.15%の目標値に設定した。

2027年度確認目標は、2024の基準値に対して削減率を0.2%の目標値に設定した。

2. 環境活動の取組目標

■二酸化炭素排出量の削減
電力使用量の削減
<ul style="list-style-type: none"> 不要な場所、休憩時の消灯の徹底及び夏季の冷房及び暖房温度設定の確認 日々の作業活動効率化(板金工場)により電力使用量を削減。 古い蛍光灯器具等(一部LED変更)の整備メンテナンス
化石燃料の削減
<ul style="list-style-type: none"> サービス代車の満タン貸し/満タン返しの徹底及び事業用車輛の運用を日々効率化を図る。 冷房及び暖房機器のメンテナンス及び使用開始と終了時の徹底による効率化を図る。 LPガスの使用量は湯沸しと板金の焼付時の適正化と効率化等の意識改善を継続して削減を図る。 除雪と排雪業務の適切且つ効率的な運用を行い、作業時間の短縮と軽油の削減を図る
車両販売及び整備によるエンドユーザーの化石燃料の削減
<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスパックの促進により顧客の管理整備の推進 整備点検入庫率の向上及び顧客車輛の管理営業整備によるエコの推進
■廃棄物排出量の削減
一般廃棄物の排出一層の削減
<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物と一般廃棄物の仕分けの徹底とにより、使用状況提示して削減への働き掛けの実施 両面コピー・裏面使用の徹底及びペーパーレスの推進
■排水量削減(水使用量の削減)
<ul style="list-style-type: none"> 日々の節水を掲示喚起して削減に努力する。 洗車する車の基準見直しによる、洗車適合車両の選別徹底と洗車マニュアルの沿った洗車の徹底 止水栓からの漏水等の注意確認をする。
■化学物質使用量の把握
<ul style="list-style-type: none"> 塗料及びうすめ液の購入量の把握する。 トルエン、キシレンの使用量算出し、廃棄量の把握する。
■メンテナンスパックの促進及び整備入庫率の向上
メンテナンスパックの促進
<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスパックの新規及び継続契約の目標進捗確認の徹底と推進 新車販売及び車検等整備点検時にメンテナンスの重要性と法定点検の必要性を説明して顧客の車両安全及び維持費用の削減に寄与する
車両整備入庫率の向上
<ul style="list-style-type: none"> 車検・点検時の計画的入庫の案内推進により顧客車両の安全性を維持する 計画的入庫及び作業効率化で残業等の削減により環境負荷の低減する

詳細に関しては、2025年環境活動計画書によりチェックする。

環境関連法規への違反・訴訟の有無

1. 環境関連法規

環境関連法令	法令要求事項	評価
廃棄物処理法	産業廃棄物の適正処理	○
自動車リサイクル法	使用済み自動車の適正処理	○
騒音・振動規制法	特定施設の届出	○
消防法	少量危険物(貯蔵所・取扱所)の届出	○
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易定期検査	○
PRTR 法	化学物質の自主的な管理	○
家電リサイクル法	対象家電排出時の適正処理	○

2. 違反・訴訟の有無

環境関連法規の違反や訴訟は発生しておりません。

また、環境当局からの違反等の指摘は、過去3年間1件もありません。

代表者による全体の評価と見直し・指示(全体評価)

見直し日時	2025年5月31日 18:00～19:00	場所	本社会議室
参加者	後藤社長 後藤常務 EA21責任者 サービス部門 野堀裕司 EA21推進事務局 森 修、田村 健一		

評価項目

- ・ EMSの有効性及び取り組みの適切性はあった。
- ・ 実施体制の役割についての修正内容「代表者による全体の評価・見直し」を再度確認した。
- ・ 実施体制は相互協力により円滑に実施されており更なる発展を期待する。
- ・ 本年も社員各位の日々の努力と配慮をもってコロナウイルスに対応してきました。
- ・ 本年度も、エコアクション21の基本に立ち返り、社員一同が何の為にやるのか今一度エコアクション21意義を確認し、環境活動計画の目標に向かって実践し実績を上げる様に努力をして行くことを確認出来た。それには、社員各自の毎日の積み重ねがCO2削減に繋がることを意識して日々の注意を怠らないことが必要であると認識を高めた。
- ・ 産業廃棄物の削減に伴い、お客様にリサイクルパーツの使用の理解を得て社会に貢献する。
- ・ 本年度も、冬期の暖房用に廃油を活用した設備を設置し、灯油・重油の削減に貢献する。

指示項目

- ・ 環境経営方針、環境活動計画、環境経営システムの3項目は変更はなし
- ・ 会社として、社員及び顧客に安全安心出来る事を今後とも見逃さず細心の注意を持って衛生管理をし日々の業務に取り組む様指示した。
- ・ 環境目標の数値に関し、メンテナンスパックの促進について、数値目標を明確に指示を行うと同時にクォーター単位に実績の対比状況を明確な表示と、課題の抽出を行い、課題に対して具体的活動の提案を行い、日々努力をして貰う様お願いした。
- ・ バッテリー・鉄くずや他の産業廃棄物の再利用に関して全量売却処理等により、産廃物のリサイクル化を推進する。
- ・ 在庫管理とアフターコールは、当社にとって大切な顧客を保護し顧客満足度を引き上げる大切な要素であり、来店顧客の推進にも繋がると同時に、顧客防衛とお客さんからの信頼を高める事で紹介活動の推進が図れるので今後とも継続する。
- ・ メンテナンスパックの新規・継続契約が伸び悩んでいるので、整備在庫時に積極的に働きかけを行う。
- ・ 在庫状況は、例年より若干増えたが、更に今後従来以上に車両の状況をきめ細かくチェックを行い安全・安心に車の使用頂くと同時に、車両販売及び車検の継続にも繋がるので、今後も、より一層活動を推進していく。
- ・ 本年度同様、次年度も会議の席で目標と実績を提示し、日々の社員の努力が讃えられるよう意識の改革に努め目標達成に取り組む。